

混和会とは、共に許し合いながら、他の人格を尊重し、共に生きる和の構築を目指す集いです。

ほとけの 混和会だより

令和元年十二月
東光院
仏の混和会
第144号

共に集い

共によりそい

共に生きる

よりどころをもとめて



お蕎麦の収穫作業、皆様のご奉仕誠にありがとうございました。

生きる事の喜びと安心は、心のかよい会える人がそばに居てくれるだけで得られます。更に仏心（慈愛心）を抱いた人がそばに居てくれるとその場の空気が和らぎ、ぬくもりを感じます。そのような環境が築けるようにと始めた「ほとけのおそば」の栽培は二十年の年月

を重ねる事が出来ました。



11/25 長雨の合間に脱穀作業をぬって



11/10 収穫、お昼のおにぎりをほおぼる



台風を奇跡的に乗り越えて、満開



9/1 善因の種を蒔きました。

仏に成る



ねえねえ お坊さん 仏に成るって どう言うことですか？



そうじゃない 仏と言っても 死んで仏に成る わけでは無いの じゃよ。

仏様とは「ブツダ」の事で 大自然の真理に目覚め大いなる慈愛心、仏心を得た人の事を言うのじゃよ。

この仏心を会得された人は已に對する迷いや執着と 言うものを払いのけて大いなる慈愛心「無条件の愛」を抱き人々に己の優しさを施し、 施す事を己の喜びとされるの じゃ。だから恩に着せる事も 見返りを求めることもされない から人々に崇め奉られる のじゃよ。

私達もブツダの御心をまねながら己の慈愛心を育み、 少しでも仏の境地に近づける ように努めるのじゃよ。

この度のお蕎麦の栽培も 大変な作業なんじゃが、みんなでする作業は楽しみでも あり喜びでもあるのじゃ。 そして苦勞を共に経験する と心が通い合えて安心も抱 けてくるのじゃよ。

カルマの法則

カルマとはインドの言葉で、漢字に訳して「業(ごう)」と印し意味は行為のことです。

私たちの運命は、自分の業、行いが原因となって因果の道理にしたがって生み出されます。 優しい思いは優しく伝わり、人を憎む思いは憎しみとして好ましくないカルマと成ります。 幸運、不運、そして良い出来事も受け入れがたい出来事もすべて己のカルマが要因としてふりかかって参ります。

よってお経には「善因善果、悪因悪果」とか、「因果応報」などと印されております。

東光院の「ほとけの菜園」は良いカルマ「善業」が巡り巡っていくように皆様の善意でまかなわれております。

堆肥を提供頂いたりサポートして下さる岩井良夫様そして日頃の農作業を手伝ってくれる横尾勝行様、西田眞子様、そばの収穫作業にご協力頂いた横尾正様、宮崎忠夫様、横尾介方様、五十嵐實様、五十嵐功様、宮崎政幸様、宮崎實様、更にそばの収穫の折にお寺で沢山のおにぎりをにぎってくれた林かおる様、菅沼典子様、山崎勝子様、その外にも沢山人々の善意の行為に心より感謝申し上げます。そしてこの良きカルマが大いなる導きと成るよう勤めさせて頂きます。合掌亮観拝



菊のご紋

日本の仏様

特別編

この所、天皇陛下の御即位をお祝いする、式典やパレードなどが続き、天皇陛下のお姿をお目にする機会が増えたかと思えます。
今回は特別編とし、天皇家と天台宗について紹介します。

● 天皇家と天台宗

皇室と天台宗との繋がりはとても古く、天台宗が開かれた一千二百年前から始まります。

天台宗の宗祖、最澄の才能にいち早く目を付けた時の天皇、桓武天皇は、「内供奉」という政治顧問の様な役割に最澄を付けます。

また、かつて仏教は学問として、医学や薬学などにも精通していたため、国家予算を使い最先端の仏教の知識や教えを日本へ取り入れるため、中国へ留学に向かわせます。

以後、帰国した最澄は天皇へ仏教的アドバイスや、天皇家内の病氣平癒のご祈祷まで行う様になります。

また、比叡山の立地が京都御所の鬼門に当たることから、朝廷と国の安泰を祈る鎮護国家の道場としても重要な役割を担って来ました。

● 菊のご紋

天皇家の家紋とはご存じの通り「菊のご紋」ですが、実は元々比叡山延暦寺で使われていた紋章でした。



天台宗の紋



比叡山の紋

この菊は比叡山内に自生していた「叡山菊」と呼ばれる十六弁の菊の花を最澄が桓武天皇へ献上した所、桓武天皇に気に入られ、「菊の紋を使いたい。」との申し出を受け、比叡山の紋を献上した事から始まると言われております。
そのため、同じ紋を使う訳にはいかないという事から、天台宗の紋には菊の紋に三諦章(又は三諦星)と呼ばれる三つの星を加えた物を。比叡山の紋には法輪と呼ばれる車輪の様な仏具を加えた物を使用するようにになりました。

● 現在の天皇と天台宗

現在は政教分離のため、皇室との直接的な関わりは無くなりましたが、比叡山では開山当時より毎年四月に天皇陛下の御衣をお借りし「御修法大法」と呼ばれる玉体の安穏と人々の幸せなどを祈禱する、比叡山において最も重要で天台密教最高峰の秘法が、天台宗の高僧方によって現在も執り行われております。

時代は変われど、今でも天台宗は天皇家と同じ菊を使わせて頂いている。という事に恥じぬよう、天皇陛下のように、人々の平和を願える行動をして行かなければならないのかもしれないね。 亮澄拝

奉祝法要に陛下御即位



古来より天皇家とのつながりが深い天台宗。去る十一月五日には比叡山延暦寺大講堂にて、天台座主猊下御導師の元、天皇陛下御即位奉祝法要が執り行われました。

今回は宗務総長のはからいにより、我々天台雅楽会が楽方としてはるばる本山まで赴く運びとなり、筆策四管のうちの一として特別に参加させて頂きました。

当日までには練習や準備もあり、気苦労もありましたが、本山に響きわたる雅楽の音色に大変光栄な一時を過ごさせて頂きました。

その後は三年ぶりの遠出であったこともあり、奈良は長谷寺と明日香の古墳巡りをして帰路につきました。



七五三の季節に



秋も深まり深大寺では七五三の季節となりました。例年千件前後のご家族がお子様の健やかな成長を祈り御大師様の元にお参りにいらつしやいます。子供は国の宝、元三大師様に見守られながら、これからの時代を支える人材に育ってほしいと思います。

正月に向けて

年々早くなる一年間。今年も最も多くの参拝者がいらつしやる修正会(しゅしょうえ)お正月の事です)が目前に迫っています。昨年より授与物(お守り売り場)担当を任せられ、アルバイト採用をはじめ諸々の準備を進めています。しかし秋は行楽シーズンで行事も多く、様々な事に気持ち散漫になりながらも残りひと月、万全な備えで望むべく努めていきます。 亮澄拝

